

嬉しく誇らしいメール

年明けの1月6日に次のようなとても嬉しいメールが学校に届きました。

…突然のメールで失礼します。私は、「はこだてクリスマスファンタジー」スタッフの者です。昨年12月に行われた「2011 はこだてクリスマスファンタジー」で、遺愛の生徒達の活躍に感謝と敬意の気持ちを伝えたくてメールしました。

「クリスマスファンタジー」開催の前日、ボランティア説明会を行いました。10名弱の貴校の生徒を含む15名ほどのボランティア参加希望者が集まりました。皆、熱心な眼差しで、私が話したボランティアの仕事内容を聞いていました。彼女たちのその眼差しを見て、期待を持つことが出来ました。

そして初日を迎えました。

初日から多くの生徒達が参加してくれました。事前のミーティングで、「ファンタジーは25日間の開催だけれど、今夜会場へ来てくださっている人は今日だけかもしれません。そんなお客様の為に、心からおもてなしをしてください。後日自宅へ帰って写真を見たときに、『可愛いサンタさん居たね』とか『あの着ぐるみさん可愛かったね』と言われるように、思い出作りのお手伝いをしてください。」と口酸っぱく話しました。最初は皆ぎこちなかったですが、回数を重ねるごとに声は大きくなり、どんどん笑顔が素敵になっていきました。12月の海沿いですから、なにせ寒いんですよ。雨も降ったし、吹雪の日もありました。最後の三日間は2時間以上着ぐるみを着てくれました。本当に頭が下がりました。彼女たちの笑顔はお客様は勿論、一緒にボランティアをした者達の心を暖かくしてくれました。

もし彼女たちが参加していなかったらと思うと「ゾッ」とします。25日間、着ぐるみ4体を動員出来たのは彼女達のおかげです。心から感謝します。そして、彼女達に日々接している先生方、おそらく送迎をしていたであろう保護者の皆様にも、心から感謝します。…このようなメールでした。新年早々、私自身嬉しく誇らしく思いました。



「遺愛クリスマスのゆうべ」の様子

2012年1月10日